第4部　福島県卓球協会加盟団体の概要

第1節　福島県高等学校体育連盟卓球専門部 …… 207

第2節　福島県中学校体育連盟卓球専門部 …… 213

第3節　福島県教職員卓球連盟 …… 217

第4節　福島県実業団卓球連盟 …… 220

第5節　福島県家庭婦人卓球連盟 …… 221

第6節　福島県卓球ベテラン会 …… 222

第1節　福島県高等学校体育連盟卓球専門部

専門委員長　渡　部　長　二

1．専門部のあゆみ

福島県高体連「30年のあゆみ」によると、昭和21年8月福島県高体連の前身である中学校校友会連盟が発足、9月に中学校体育大会が福島県体育協会主催のもと開かれ、卓球は10チームが参加した。翌22年は7月に平で開催され、11月21日・22日は飯坂町に於て、第1回東北中学校卓球大会（現東北高等学校卓球選手権大会）が福島県体育協会・県卓球協会主管のもと団体予選を兼ねて実施された。23年は学制改革に伴い、中学校は高等学校となり、県中学校校友会連盟は発展的に解消し、県高等学校体育連盟となり、同年の県高校体育大会は県体育協会主催の県総合体育大会に包含されて実施された。昭和25年県高体連規約で5ブロック（県北・県南・会津・浜・相馬）に支部を置き、各高等学校長を参与とし、又単一種目の部長・副部長制を取り入れて、現高体連組織の基盤は確立された。卓球は部長笹山進（福島女）・副部長三浦勝美（安達）が就任した。以後二氏を中心に大会は運営されたが、県卓球協会の多大なご協力とご援助を頂いたということである。

30年に県高校総体として第1回が福島で開催され、この時から専門委員長（専門部が規約上確立したのは昭和27年）は各地区代表の互選によって選ぶ公選制となり、初代委員長には三浦勝美（安達）が選ばれた。翌31年から40年までの10年間は宇賀神喜嗣（郡山女）、41年から44年までの4年間は斎藤正雄（成蹊女）が就任した。又42年までの部会長は開催地区の校長が務めた。その後部会長は山崎啓哲（磐城第一・43～51）、白石永甫（郡山女・52）、丹藤祐輔（福島西女・53、会津・54～56）の各校長が委員長会（地区委員長6名と県委員長の計7名）によって選出され、57年選出された村上啓正（福島東・57、安積・58～60）部会長の時、新たな専門部規約がつくられ、評議員会（県委員長と各地区委員長を含む3名の評議員計19名）によって選出されるようになり、五十嵐大典（県石川・61、喜多方・62～63）、平山宏（保原1～4）、北原正三（平工5、郡北工6～8）、根本健作（情報9～現在）に至っている。専門委員長については昭和45年から62年までの18年間、大橋柾（平工業）が務め現体制の基本となる規約改正に尽力した。昭和63年から5代目渡部長二（喜女元～10、若商63・11）が就任、指導者の意見が大いに採り入れられる体制になるよう、規約の改正を行った。その後元年、2年、3年、4年、5年と毎年改正し、9年、10年にも一部改正し現在に至っている。その間、県卓球協会にはご援助いただき、特に平石家治前理事長には多大なるご協力をうけ、高体連との連携は一層密になった。

執行部は交代時期を迎えており、新委員長を選出し、新鮮な感覚を持ち常に改革・向上の気持ちを忘れず失敗を恐れず勇気を持って積極・果敢に実行することを願っている。

2．主な大会成績（全国大会中心）

県高体連30年誌（大橋柾前委員長の執筆）によれば、全国大会ベスト16に23年会津、26年郡山女、31年喜多方女が入り、特に35年は成蹊女（斎藤正雄監督）が全国大会ベスト8に入賞と活躍した。個人では30年の全国高校総体で奥村厚子（成蹊女）がシングルス第2位、ダブルスは加藤智江子と組んで第5位に入賞、35年には尾形正子（成蹊女）が全日本ジュニア第3位に入賞、36年富田徳子（成蹊女）が全日本ジュニアにランク入りした。

40年代に入り、44年磐城第一（山崎勲監督）が全国高校総体ベスト16、個人では渡辺三代子（磐城一）が43年全日本ジュニア・44年全国高校総体でランクに入り、45年佐藤ふみ子（郡山女）が全国高校総体ベスト8に入賞、48年全国高校総体では高野静子（平商）と増田淳子（安女）が全国ランクに入り、県全体のレベルアップに貢献した。

50年代に入ると53年福島総体めざし強化したが男子は強化校が実力伯仲、しかし本番の高校総体では喜多方女子（渡部長二監督）が久し振りに全国ベスト16に入っただけであった。個人では54年井戸川貴子（磐城女）が全日本ジュニアにランク入り、57年落合茂幸・上田光一組が全国高校総体ダブルス第5位に入賞したにとどまり、東北では成績を上げてはいるが全国ではあと一歩の成績であった。

平成に入り、平成7年の第50回国民体育大会が本県開催が決定されるに至り、強化がはかられ平成3年秋山月彦（須賀川）が全国高校総体ランク、平成5年になると藤田由希（安達）はヨーロッパ遠征に選ばれ団体2位、ダブルス優勝とすばらしい成績であった（平成6・7年もヨーロッパ遠征に選ばれ団体・シングルスとも優勝と立派な成績を残した）。また全国高校総体ではランク入り、高橋美智子と組んだダブルスは第3位に入賞、岡田晶子（福女）はベスト8に入賞した。平成6年は藤田・高橋組（安達）が全国高校総体ダブルス第3位入賞、平成7年は藤田・高橋組ベスト8、馮海濤（原町工）が第2位入賞し、国体では男子は3位、女子は第5位入賞とこれまでにない良い成績を上げることができた。平成8年は馮海濤（松栄）が高校総体で第2位、高橋美貴江（安達）は全日本ジュニア第3位入賞、国体では男女とも第5位に入賞した。平成9年は馮海濤（松栄）が高校総体でランク、国体では女子の第5位入賞、全日本ジュニアでは帝京安積の今福豊と渡辺隆司が第3位と第5位に入賞した。平成10年は全国高校総体で帝京安積（熊谷勝明監督）が県にとって初めての学校対抗第3位入賞、個人でも今福豊・渡辺隆司組がダブルス第3位入賞、シングルスでもともにベスト8に入賞とすばらしい成績を残してくれた。

専門部歴代役員一覧

年度	県部会長	県委員長	県北委員長	県中委員長	県南委員長	会津委員長	いわき委員長	相双委員長
30	児玉卯一郎（安　達）	三浦　勝美（安　積）	笹山　進（福島女）	本田　克彦（郡山商）	和知　一（白　河）	武広　勇（石山女）	富樫和雄（平商）	志賀　智（小高農）
31	押切　良純（郡山女）	宇賀神喜嗣（郡山女）	〃	宇賀神喜嗣（郡山女）	〃	〃	〃	松崎　義次（浪　江）
32	黒河内忠孝（喜　女）	〃	〃	〃	〃	佐藤　昌志（会津工）	〃	〃
33	橋本　憲司（磐　城）	〃	三浦勝美（安達）	〃	木村　友之（白　河）	慶徳　健（会津女）	〃	〃
34	鈴木　英一（福島工）	〃	斎藤正雄（成蹊女）	〃	〃	〃	佐藤　博（磐城女）	〃
35	新妻　三郎（安積女）	〃	〃	那知上　佑（安　積）	羽生　正允（白　河）	小林　肇（　　）	〃	佐々木正則（相馬女）
36	大和田道隆（磐　城）	〃	〃	〃	〃	家久来芳夫（若松商）	鈴木　民郎（磐　城）	〃
37	西間木正己（　　）	〃	〃	宗像　次男（郡山工）	〃	〃	山崎　勲（磐城一）	〃
38	水戸　和一（浪　江）	〃	〃	〃	〃	冠木　常夫（喜商工）	〃	松崎　義次（浪　江）
39	明石　智真（成蹊女）	〃	〃	〃	斎藤　喜蔵（白河女）	金川　孝（会津女）	大橋　柾（平　工）	西郷　徹夫（相馬女）
40	慶徳　健（　　）	〃	〃	〃	〃	鈴木　守信（若松商）	〃	〃
41	吉田　三義（遠　野）	斎藤　正雄（成蹊女）	大川　滋（福島女）	〃	〃	〃	〃	〃
42	遠藤　武雄（喜　工）	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
43	山崎　啓哲（磐城一）	〃	萩原　国宏（緑ケ丘）	松崎　俊一（郡西工）	〃	伊東　守信（若松商）	〃	〃
44	〃	〃	湯沢　昭吉（学福工）	〃	〃（須　女）	平山　宏（会津女）	〃	〃

年度	県部会長	県委員長	県北委員長	県中委員長	県南委員長	会津委員長	いわき委員長	相双委員長
45	山崎　啓哲 （磐城一）	大橋　　柾 （平　工）	三浦　勝美 （安達）	松崎　俊一 （郡西工）	斎藤　喜蔵 （須　女）	渡部　洋一 （会津農）	山崎　　勲 （磐城一）	西郷　徹夫 （相馬女）
46	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
47	〃	〃	森　　義男 （福　島）	〃	伊東　守信 （白農工）	〃 （大　沼）	〃	〃
48	〃	〃	〃	〃 （郡山女）	〃 （矢　吹）	〃	〃	〃
49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 （原　町）
50	〃	〃	〃	〃	〃 （県石川）	〃	根本　圭長 （四　倉）	〃
51	〃	〃	湯沢　昭吉 （学福工）	〃	〃	〃 （会津農）	〃	〃
52	白石　永甫 （郡山女）	〃	〃	〃	〃	〃	〃 （平　商）	〃
53	丹藤　祐輔 （福西女）	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小林　昭洋 （小高工）
54	〃 （会　津）	〃	〃	〃	石射　八郎 （須　女）	〃	鈴木　理介 （磐城一）	〃
55	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
56	村上　啓正 （福島東）	〃	佐藤　嘉継 （福西女）	〃	飛田　　徹 （矢　吹）	〃	〃	西郷　徹夫 （相　馬）
57	〃 （安　積）	〃	〃	〃	〃	渡部　長二 （喜　女）	〃	〃
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃 （若松商）	〃	池田　弘一 （双　葉）
59	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
60	五十嵐大典 （県石川）	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 （原　町）
61	〃 （喜多方）	〃	〃	〃	〃	〃	〃	門馬　文善 （小高工）
62	〃	〃	佐藤　紀雄 （福島北）	猪狩　修一 （郡山商）	〃	斎藤　隆弘 （会　津）	〃	〃
63	平山　　宏 （保　原）	渡部　長二 （若松商）	〃	〃	小松　　正 （学石川）	〃	〃	〃
1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 （相馬女）
2	〃	〃	〃	飛田　　徹 （郡山女）	〃	〃	〃	池田　弘一 （原　町）
3	〃	〃 （喜　女）	佐藤　紀雄 （福西女）	〃	〃	高橋　　司 （会津女）	先崎　　清 （内　郷）	〃

年度	県部会長	県委員長	県北委員長	県中委員長	県南委員長	会津委員長	いわき委員長	相双委員長
4	平山　宏 （保　原）	渡部　長二 （喜　女）	佐藤　紀雄 （福西女）	飛田　徹 （郡山女）	鹿岡　国俊 （白河実）	高橋　司 （会津女）	先崎　清 （内　郷）	池田　弘一 （原　町）
5	北原　正三 （郡山北工）	〃	〃	〃	〃	遠藤良市 （喜多方）	〃	浅川　康夫 （小高商）
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃 （福島西）	〃	〃	〃	〃	鈴木　重之 （浪　江）
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	鈴木　是行 （磐城一）	唯野　聖一 （相　馬）
9	根本健作 （情　報）	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	木村　哲也 （小高工）
11	〃	〃 （若松商）	〃	佐藤　敏夫 （郡大附）	武田　和久 （情報）	〃	〃	湯沢　智幸 （原　町）

〈高校体育大会卓球競技〉

═══ 前回までの優勝高校・優勝者 ═══

回		学校対抗	シングルス	高校名	ダブルス	高校名	年度・開催地
1	男	福　島	佐原　昌幸	相　馬	梅原　哲次・佐原　昌幸	相　馬	昭和30年
	女	若松女子	奥村　厚子	成蹊女子	奥村　厚子・加藤智江子	成蹊女子	福　島　市
2	男	福　島	諸星　光雄	相　馬	桜井　武・木村　三夫	福　島	昭和31年
	女	喜多方女子	佐藤　則子	喜多方女子	大沢　寛子・小高　敏子	若松女子	郡　山　市
3	男	原　町	三林　俊一	福　島	高城　義紘・林　幸雄	原　町	昭和32年
	女	福島成蹊女子	小原　公子	保　原	長谷川孝子・斉藤　ワカ	喜多方女子	会津若松市
4	男	郡山商業	宮崎　紀	磐　城	宮崎　紀・丸山　文昇	磐　城	昭和33年
	女	会津女子	水野　和子	喜多方女子	水野　和子・斉藤　和子	喜多方女子	いわき市
5	男	相　馬	門馬　伯行	相　馬	反畑　秀彦・門馬　伯行	相　馬	昭和34年
	女	福島成蹊女子	梅津　泰子	成蹊女子	尾形　正子・長沢マリ子	成蹊女子	福　島　市
6	男	磐　城	伏見　利博	相　馬	伏見　利博・相原　剛	相　馬	昭和35年
	女	福島成蹊女子	尾形　正子	成蹊女子	尾形　正子・長沢マリ子	成蹊女子	郡　山　市
7	男	相　馬	伏見　利博	相　馬	飛田　正道・吉田　和彦	磐　城	昭和36年
	女	福島成蹊女子	佐藤　トキ	成蹊女子	丸　ヨシ子・田崎　朝子	会津女子	いわき市
8	男	相　馬	吉田　和彦	磐　城	吉田　和彦・熊谷　宏文	磐　城	昭和37年
	女	福島成蹊女子	富田　徳子	成蹊女子	富田　徳子・阿部　ミネ	成蹊女子	会津若松市
9	男	磐　城	伊藤　昌夫	平　工　業	佐藤　昭・佐藤　武	平　商　業	昭和38年
	女	磐城女子	吉田マサ子	郡山女子	斉藤美恵子・磯上　佳津	磐城女子	浪　江　町

回		学校対抗	シングルス	高校名	ダブルス	高校名	年度・開催地
10	男	平工業	佐藤　武	平商業	佐藤　英幸・坂本　正則	郡山商業	昭和39年
	女	福島女子	三瓶　利子	郡山女子	舟山　節子・菊田　承子	福島女子	福島市
11	男	福島商業	鈴木　啓	平工業	小川　正浩・鈴木　啓	平工業	昭和40年
	女	磐城第一	久野　怜子	磐城女子	佐川千代子・加藤　豊子	成蹊女子	須賀川市
12	男	相馬	桜沢　秀二	平工業	白井　俊雄・紺野　正司	福島商業	昭和41年
	女	磐城第一	本田みき子	福島女子	山口　恵子・田巻　愛子	磐城第一	勿来市
13	男	郡山商業	白岩　明男	若松商業	大堀　均・永峰　武俊	会津工業	昭和42年
	女	福島成蹊女子	大竹ミサ子	会津女子	海東　さみ・富谷　明子	相馬女子	会津若松市
14	男	平工業	芳賀　善光	若松商業	渡辺　勇・日向寺良幸	平工業	昭和43年
	女	磐城第一	遠藤　潤	磐城第一	遠藤　潤・遠藤　恒子	磐城第一	相馬市
15	男	勿来工業	蓬田　博	好間	長谷川昭二郎・鈴木　民治	磐城	昭和44年
	女	磐城第一	奥山　節子	福島女子	渡辺三代子・猪狩　良子	磐城第一	福島市
16	男	平工業	蓬田　博	好間	小西　正光・千代住　滋	磐城	昭和45年
	女	郡山女子	佐藤ふみ子	郡山女子	石井　淑子・斉野　恵子	磐城第一	須賀川市
17	男	平工業	安倍　幸雄	勿来工業	山口　健二・佐々木幸雄	平工業	昭和46年
	女	相馬女子	佐藤香代子	平商業	加藤　幸子・天野　和子	相馬女子	いわき市
18	男	郡山商業	佐藤　光昭	郡山商業	佐藤　光昭・横山　俊秀	郡山商業	昭和47年
	女	磐城第一	石井　淑子	磐城第一	太田　範子・増田　淳子	安積女子	喜多方市
19	男	勿来工業	下山田守一	平工業	下山田守一・水野　幸彦	平工業	昭和48年
	女	磐城第一	高野　静子	平商業	草野　京子・柴田美也子	磐城第一	小高町
20	男	喜多方工業	渡辺　善光	田村	小野寺敏彦・鈴木　善光	喜多方商業	昭和49年
	女	保原	鈴木　春江	平商業	斉藤　京子・宍戸つや子	保原	福島市
21	男	喜多方工業	根本　新一	白河	木村　義栄・武藤　勇	喜多方工業	昭和50年
	女	相馬女子	佐藤　美穂	会津女子	佐藤　美穂・高原ますみ	会津女子	郡山市
22	男	喜多方工業	下山田守夫	平工業	下山田守夫・高田　篤	平工業	昭和51年
	女	喜多方女子	須藤　泰子	喜多方高	中川　睦子・菊地久美子	喜多方女子	いわき市
23	男	福島商業	小野寺和美	喜多方工業	佐藤　敏行・大野　光幸	小高工業	昭和52年
	女	喜多方女子	菊地久美子	喜多方女子	中川　睦子・菊地久美子	喜多方女子	喜多方市
24	男	喜多方工業	横山　武浩	福島工業	斉藤　達也・今野　政寿	福島商業	昭和53年
	女	喜多方女子	田村　浩子	平商業	田村　浩子・小野　美恵	平商業	福島市
25	男	平工業	小島　篤	平工業	大内　雅之・高野　恒	福島商業	昭和54年
	女	平商業	井戸川貴子	磐城女子	内海香津代・鈴木真由美	喜多方	相馬市
26	男	福島工業	鈴木誠一	平工業	須田　仁・湯沢　学	福島工業	昭和55年
	女	磐城女子	井戸川貴子	磐城女子	安藤ひとみ・志賀豊子	日女工業	郡山市
27	男	福島工業	落合茂幸	福島工業	渡部洋二・佐藤隆司	喜多方工業	昭和56年
	女	喜多方女子	井戸川貴子	磐城女子	菅家奈々子・小田切浩美	喜多方女子	喜多方市
28	男	福島工業	落合茂幸	福島工業	上田光一・落合茂幸	福島工業	昭和57年
	女	喜多方女子	赤城美智代	喜多方女子	青山千賀子・赤城美智代	喜多方女子	いわき市

回		学校対抗	シングルス	高校名	ダブルス	高校名	年度・開催地
29	男	福島工業	佐藤　敏美	福島工業	鈴木　是行・浅川　英典	磐城	昭和58年
	女	喜多方女子	下山田久美子	磐城女子	下山田久美子・浜松　康子	磐城女子	福島市
30	男	福島工業	平石　秀樹	須賀川	渡辺　俊雄・樋田　祐介	福島工業	昭和59年
	女	喜多方女子	星　智恵	相馬女子	安倍　一美・佐藤　誠子	喜多方女子	郡山市
31	男	小高工業	緑川　朝久	磐城農業	馬場　伸一・物江　淳一	安積商業	昭和60年
	女	磐城女子	八巻　貴子	保原	小檜山弘美・大川原聡美	磐城第一	原町市
32	男	学法石川	小塩　浩	須賀川	壁谷　卓・黒森　伸夫	安積	昭和61年
	女	喜多方女子	五十嵐さゆり	喜多方女子	五十嵐さゆり・秋山　和代	喜多方女子	喜多方市
33	男	福島工業	小塩　浩	須賀川	窪木　清彦・西牧　和雄	学法石川	昭和62年
	女	喜多方女子	古川　明子	喜多方女子	東条　由美・古川　明子	喜多方女子	原町市
34	男	磐城	深谷　亮幸	安積	金子　雄治・三瓶　剛治	会津	昭和63年
	女	喜多方女子	古川　明子	喜多方女子	東条　由美・古川　明子	喜多方女子	福島市
35	男	勿来工業	山本　健史	須賀川	佐藤　拓・橋本　彰夫	磐城	平成元年
	女	喜多方女子	薄　香織	喜多方女子	佐野　修子・山口　育子	喜多方女子	白河市
36	男	須賀川	山本　健史	須賀川	山本　健史・秋山　月彦	須賀川	平成2年
	女	喜多方女子	深谷　純子	安積女子	薄　香織・山口　育子	喜多方女子	いわき市
37	男	須賀川	秋山　月彦	須賀川	山本　健史・秋山　月彦	須賀川	平成3年
	女	尚志	深谷　純子	安積女子	遠藤可奈子・大平ももこ	磐城第一	原町市
38	男	福島工業	中島　龍一	会津農林	和泉　潤・小川　伸治	福島工業	平成4年
	女	桜の聖母	菊地　弓子	尚志	今福　麻美・佐藤奈津子	桜の聖母	福島市
39	男	福島工業	谷川　嘉成	会津工業	高橋　誠・藤田　俊介	福島工業	平成5年
	女	福島女子	菊地　弓子	尚志	岡田　晶子・岡田　直子	福島女子	郡山市
40	男	小高工業	遊佐　充裕	小高工業	渡辺　和幸・中島　仁	帝京安積	平成6年
	女	安達	藤田　由希	安達	藤田　由希・高橋美智子	安達	須賀川市
41	男	帝京安積	馮　海涛	原町工業	渡辺　和幸・横田　敬春	帝京安積	平成7年
	女	安達	高橋美智子	安達	根本恵美子・山木　成愛	郡山女子	須賀川市
42	男	帝京安積	遊佐　充裕	小高工業	横田　敬春・渡辺　隆司	帝京安積	平成8年
	女	安達	高橋美貴江	安達	三原　香織・伊藤　絵美	小高工業	福島市
43	男	帝京安積	馮　海涛	松栄	横田　敬春・渡辺　隆司	帝京安積	平成9年
	女	小高工業	高橋美貴江	安達	高橋美貴江・西山亜希子	安達	喜多方市
44	男	帝京安積	今福　豊	帝京安積	渡辺　隆司・今福　豊	帝京安積	平成10年
	女	小高工業	玉木　尚子	郡山東	玉木　尚子・荒井　沙織	郡山東	原町市
45	男	帝京安積	佐藤　久也	帝京安積	菅野　貴之・二木　徹	福島工業	平成11年
	女	郡山東	五十川美美	安積女子	大和田ゆかり・美野佐知子	郡山東	福島市

東北高校卓球選手権大会（優勝）

◎学校対抗の部　※印男子

第３回大会（昭和24年）　郡山女子高校
第６回大会（昭和27年）　福島女子高校
第13回大会（昭和34年）※相 馬 高 校
第４回大会（昭和25年）　福島女子高校
第10回大会（昭和31年）　喜多方女子高校
第50回大会（平成８年）※帝京安積高校

◎シングルの部

第３回大会（昭和24年）
　秋澤　静江（郡山女）
第４回大会（昭和25年）
　後藤　昭子（福島女）
第５回大会（昭和26年）
　後藤　英子（福島女）
第11回大会（昭和32年）
　諸星　光雄（相馬）
第34回大会
　井戸川貴子（磐城女）
第47回大会（平成５年）
　藤田　由希（安達）
第50回大会（平成８年）
　馮　　海濤（松栄）
　高橋美貴江（安達）

◎ダブルスの部

第３回大会（昭和24年）
　秋澤　静江・大原　芳枝（郡山女）
第４回大会（昭和25年）
　後藤　昭子・後藤　英子（福島女）
第９回大会（昭和30年）
　奥山　厚子・加藤智江子（成蹊女）
第13回大会（昭和34年）
　木幡　　功・佐々木政喜（相馬）
第25回大会（昭和46年）
　小西　正光・千代　住滋（磐城）
第39回大会（昭和60年）
　馬場　伸一・物江　淳一（若松商）
第49回大会（平成７年）
　藤田　由希・高橋美智子（安達）
第50回大会（平成８年）
　横田　敬春・渡辺　隆司（帝京安積）

第２節　福島県中学校体育連盟卓球専門部

元委員長　**壁　谷　之　夫**

昭和26年私が教師になった頃は、軟式卓球だけだったので、早速硬式を取り入れ、二本立ての大会を持った。しかしそれは、郡・市大会の上の地区大会（６地区）である。そこで何とか、県大会をとの声が上ったが、１ケ所に集めて県大会を開催するのは、種々の問題があった。その第１は、広い会場の確保。第２は経費の面である。でも、やっとの事で、第１回の県大会を昭和33年に開催できた。勿論、団体戦のみ。個人のシングルスは第４回大会より行った。ダブルスは、ずっとおくれて、平成２年から実施できた。さて、初めての県大会は、地区大会をやらず、各郡から１チーム、市から代表２チームで、計24チームによるトーナメント法の試合で、１日で大会が終わった。それは前にも述べたように、経費の問題で、当時は競技力の向上等は問題でなく、いかに経費を軽減して県大会を実施するのかが、第一であったわけである。

しかし、この方法も回を重ねるにつれて問題が生じた。それは、県代表として東北大会に望んでも初戦で敗れる事が多く、全国大会迄つながらない事だ。そこでもっと競技力向上をと叫ばれだした。今度は郡・市代表制を改め、地区代表制をとり昭和48年の第16回大会より正式に、試合日を２日間とし、予選リーグ（16チームの４ブロックによる）、決勝トーナメント（各ブロック上位２チームによる）方式に改めたわけである。

この方法は現在も行っているが、決してベターとは思っていない。それは各地区（６地区）代表の１位を予選リーグで、同ブロックに２チームを入れなければならないからである。

この方法は私が提案し、東北大会でも昭和59年から行っている。

さて、中体連の県委員長は後に列記するが（歴代委員長名と学校名）32回（平成元年）迄に14人と猫の目のように変わった。その理由は、当時、県大会を開催する場合の第一の問題は、広い会場である。殆ど高校の体育館を借りたのである。そして県大会を6地区持廻りで実施している為、その地区の、卓球専門部長を県の委員長にすることにしていた。その方が地元高校と会場・補助員等の折衝、卓球台の運搬等、何かと便利であったからである。しかし、このように毎年委員長が変わる組織は、東北でも上位に入れない弱い県になった大きな原因の一つと考えられる。

私が、在職していた平成元年迄に、東北大会で優勝したのは、（シングルスのみ）

昭和54年、岩本　繭郎（喜多方三）……福島市

〃〃55年、渡辺　厚子（古殿中）……多賀城市

〃〃63年、深谷　純子（郡山ザベリオ）……原町市　　以上3名だけだった。

平成2年から、県委員長を、郡山ザベリオ中荒木久勝先生にお願いした。

そして、私の在職中、「やればできる」と云う信念で、北山中、若松四、喜多方一が県優勝、東北大会入賞、全国大会へと活躍してくれた、水戸昇先生、その他でも活躍してくれた多くの先生方に感謝したい。

又、荒木久勝先生は、県の委員長になったら責任を感じてか、平成5年、遂に東北大会で初優勝（女子団体で）を成し遂げたのである。

それも出来るべくして出来たものだと、私は彼を知っているから言えるのである。

団体戦での選手の使い方が、とてもすばらしい。普通、補欠と云われている選手でも、どこかの試合に、ちゃんと使って、試合を経験させるのである。普通の監督では、とても真似できない事を平気でやってしまうのである。

○チームのために。

1．「和」は無限の力を秘めている。　　2．汗でできた人間関係は一生の財産。

3．本当の敵は味方のコートにある。

◎そして選手には!!

1．技術を磨く前に心を磨け。　　2．しぼられにくい選手は、大成しない。

委員長　**長　場　壮　夫**（須賀川一）

福島県中体連と卓球部会が、ここ10年間で、どのように改革されてきたかを簡単にまとめると、次の4つになる。

(1)　ダブルスが、平成2年度から取り入れられた。

(2)　6地区持回り開催から、2地区合同3ブロック、持回り開催へ変更された。

(3)　県大会の支部地区予選大会が、3日以内となった。

(4)　県専門委員長が、開催地区専門部長から数年間の専門委員長へ固定された。

まず、ダブルスについては、シングルス16名という、限定された選手だけではなく、ダブルス16、ペア32名の参加は、より多くの選手に、県大会参加の喜びを与える点で、大きなメリットがある。東北大会まではつながらないにしても、県大会に参加したという自信と満足感は大きいと思う。東北でも福島県だけの開催だが、今後も大切な種目として残していきたい。

次に、2地区合同3ブロック持回り開催だが、1地区での全種目開催では、会場の確保が難しく、競技種目での会場争いが緩和されてきている。

今後は種目ごとの分離開催へ移行していくのではないかと考えられる。

3つ目は、支部地区予選大会が3日以内になったことだが、中体連の行事削減と経費負担の軽減の波に押され、仕方ないのかも知れないが、選手のことを考えると、余裕のある県大会の予選であってほしい気もする。

最後に、数年間の専門委員長固定だが、毎年、委員長が変わると、前年度までの経過が分からず、混

乱してしまうので、数年の継続が必要で、東北大会が6年に1度、本県で開催されるわけだが、それを一応の目安として交替していくことが望ましいと考える。

さて、10年間の福島県の選手の活躍を見てみると、藤田由希（二本松一⇨中央大）の平成4年度、全国中学校女子シングルス優勝、遊佐充裕（信陵⇨愛知工業大）の平成5年度東北中学校男子シングルス優勝や、団体戦での郡山ザベリオ学園中学校の東北大会優勝、全国中学校ベスト13入りがあげられる。今後、全国大会等での活躍を期待したい。

この全国大会での活躍には、第50回国民体育大会（須賀川アリーナ）での選手強化があり、各クラブチームの努力が大きな成果をあげた。主な指導者には深谷秀三氏（富久山卓球）、斎藤一美氏（セントラル）、橋本義一氏（いわき卓球）などがあげられる。現在も中学生選手を指導されており、今後も一層のご指導をよろしくお願いしたい。

また、福島県の中学生の強化策としては、5月の学年別卓球選手権大会、11月の新人卓球大会と2月の中学校選抜大会があり、さらに年6回の小中高校生選抜強化リーグ大会などが、県卓球協会と協力して有機的な強化をしてきている。

中学校の主な指導者には、荒木久勝氏（ザベリオ）、大嶋克子氏（小名浜一）、佐藤敏行氏（豊間・飯舘）、上石健一氏（二本松一）、佐藤博氏（玉野・尚英）、菊池進氏（植田・天栄）、小野田純子氏（須賀川三・郡山六）、菊地敏美氏（熱海・御舘）、などがあげられる。また、若手の指導者として高橋伸一（原町三）、徳田政之（塙）、小田切敬（会北）、岩本繭郎（二本松三）、五十嵐毅（須釜）、武田信一（鏡石）、長谷川賢治（二本松二）の各氏の活躍に期待する。

◇歴代の委員長名と学校名

①松崎　俊一（郡山一）　昭和33・34・37
②壁谷　之夫（瀬　川）　昭和35・36・43・49・59・60・63・平成元
③伊藤　二郎（飯　野）　昭和38
④菅野　　隆（郡山四）　昭和39・41
⑤志賀　俊勝（内郷一）　昭和40・42・46・50
⑥安斎　驟遥（若松二）　昭和44・48
⑦野地　松男（日和田）　昭和45
⑧柳内秀之助（信　陵）　昭和47
⑨井上　六郎（双　葉）　昭和51・56
⑩本田　勝義（岳　陽）　昭和52・57
⑪蓮沼　　昭（若松二）　昭和58
⑫水戸　　昇（若松四）　昭和53
⑬荻原　義弘（喜久田）　昭和54
⑭武田喜美男（平　一）　昭和55・61・62
⑮荒木　久勝（ザベリオ）平成2・3・4・5・6・7
⑯長場　壮夫（二　瀬）　平成8・9・10（須賀川一）平成11（現）
※壁谷之夫氏は、福島県初の国際審判員。

むすびに、一言。

壁　谷　之　夫

体育館が無いので、教室の机を廊下にだして練習をした。

あるいは、特別教室を毎日片付けての練習、地理的条件で、練習試合も満足に出来なかった。又、その頃の生徒は素直で、引っ込み思案の生徒達で、勝負魂を持たせる為、徹底的に精神訓練が必要だった。

心身共に発育発達期にある、中学時代こそスポーツを通じ健全な体と精神を培う、最も大事な年代です。21世紀の我が国をになう、若人のために……

中学校には、本当に卓球を愛する熱心な指導者が、寝食を忘れて、指導に専念されております。

そして、この県大会で育った中学生が、現在福島県の中核として、団体、その他の大会で活躍していると思うとき、想い出の一コマ一コマが喜びとなり、私にとって生涯、心の張りとなって、元気づけてくれるでしょう。

「温故知新」と言いますが、過去を知ることが次のステップのもとになると思います。

多くの困難をのりこえ、中学卓球界の発展のために、尽力された多数の人々の努力に心より感謝を申し上げ、むすびといたします。本当にありがとうございました。

福島県中学校総合体育大会成績一覧表

（優勝校一覧）

回	年度	男子団体 優勝	女子団体 優勝
1	33	中村一	山都
2	34	好間	楢原
3	35	鹿島	飯野
4	36	好間	飯野
5	37	好間	飯野
6	38	好間	山都二
7	39	好間	船引
8	40	入遠野	富岡一
9	41	勿来二	富岡一
10	42	好間	富岡一
11	43	植田	内郷三
12	44	郡山五	富岡一
13	45	植田	四倉
14	46	尚英	四倉
15	47	入遠野	久之浜
16	48	植田	北山
17	49	植田	北山
18	50	植田	喜多方三
19	51	小名浜二	北山
20	52	喜多方三	平一
21	53	若松四	若松四
22	54	喜多方三	古殿
23	55	古殿	古殿
24	56	植田	古殿
25	57	喜多方三	植田
26	58	白河中央	明和
27	59	小名浜一	喜多方一
28	60	植田	喜多方一
29	61	植田	喜多方一
30	62	喜多方三	植田
31	63	須賀川	郡山ザベリオ学園
32	元	福島三	郡山ザベリオ学園
33	2	玉野	岳陽
34	3	豊間	豊間
35	4	豊間	二本松一
36	5	豊間	豊間
37	6	豊間	郡山ザベリオ学園
38	7	豊間	飯館
39	8	蓬莱	飯館
40	9	尚英	郡山ザベリオ学園
41	10	小名浜一	郡山ザベリオ学園
42	11	小名浜一	勿来一

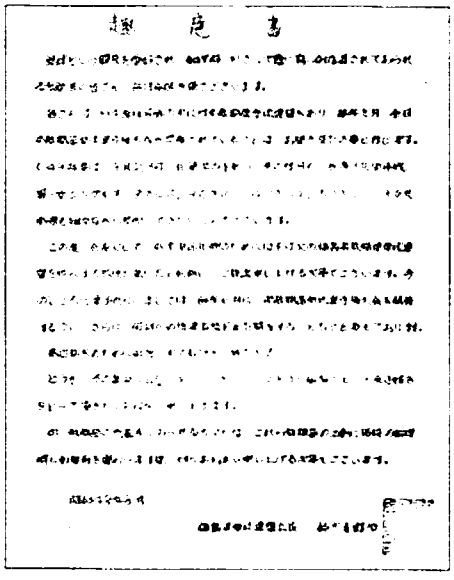
回	年度	男子個人 優勝		女子個人 優勝	
4	昭和36	鈴木秀治	(郡山三)	星栄子	(楢原)
5	37	横村真一	(中村一)	関依子	(飯野)
6	38	桜沢秀二	(好間)	猪狩美津江	(富岡一)
7	39	鈴木敏夫	(入遠野)	緑川利子	(勿来二)
8	40	平子俊記	(入遠野)	森山志代子	(白河南部)
9	41	鈴木重男	(福島一)	渡辺三代子	(富岡一)
10	42	鈴木和人	(勿来二)	細山広美	(富岡一)
11	43	水野清志	(矢吹)	猪狩栄子	(富岡一)
12	44	小野尚	(小名浜一)	石井淑子	(久之浜)
13	45	菅野末治	(尚英)	菅原久美子	(四倉)
14	46	桜井真正	(尚英)	佐藤恭子	(久之浜)
15	47	高橋賢司	(福島四)	二瓶あけみ	(福島四)
16	48	下山田守夫	(植田)	千葉治恵	(北山)
17	49	田子博道	(植田)	須藤泰子	(北山)
18	50	高橋典彦	(植田)	内海光子	(北山)
19	51	武藤雄治	(北山)	東條恵美	(北山)
20	52	鈴木誠一	(古殿)	小野恵美	(平一)
21	53	我妻利真	(古殿)	小沼ヒロ子	(若松四)
22	54	岩本爾朗	(喜多方三)	渡辺厚子	(古殿)
23	55	最上幸夫	(古殿)	渡辺厚子	(古殿)
24	56	酒井健一	(若松四)	大山真由美	(田島)
25	57	山本勝	(古殿)	種村明美	(鹿島)
26	58	成田好雄	(郡山二)	大越早苗	(白河中央)
27	59	小塩浩	(須賀川二)	佐野仁美	(喜多方一)
28	60	深谷亮幸	(行健)	古川明子	(喜多方一)
29	61	佐藤拓	(平一)	佐野修子	(喜多方一)
30	62	村松誠市	(原町三)	深谷純子	(郡山ザベリオ学園)
31	63	村松誠市	(原町三)	深谷純子	(郡山ザベリオ学園)
32	平成元	宮田庸一	(蓬莱)	斎藤暖恵	(植田)
33	2	谷川嘉成	(若松四)	藤田由希	(二本松一)
34	3	永山健一	(豊間)	藤田由希	(二本松一)
35	4	遊佐充裕	(信陵)	藤田由希	(二本松一)
36	5	遊佐充裕	(信陵)	今福愛	(二本松三)
37	6	永山京介	(豊間)	高橋美貴江	(二本松二)
38	7	山廼邊朗	(豊間)	玉木尚子	(行健)
39	8	佐藤悠記	(蓬莱)	藤田小夜	(二本松一)
40	9	横山和広	(若松四)	三原沙織	(豊間)
41	10	藤沢孝益	(石住)	三原沙織	(豊間)
42	11	大和田直樹	(大東)	玉木杏子	(郡山ザベリオ学園)

第3節　福島県教職員卓球連盟

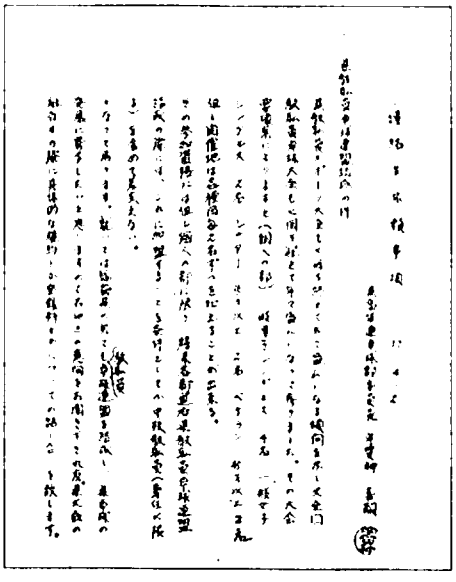
理事長　菊　地　敏　美

本件の教職員連盟の結成は、昭和49年度の行健小学校で行われた第1回福島県教職員卓球大会開催のときである。また、その前年には下記のような趣意書が会員に発送され、結成に向けての準備をしている。

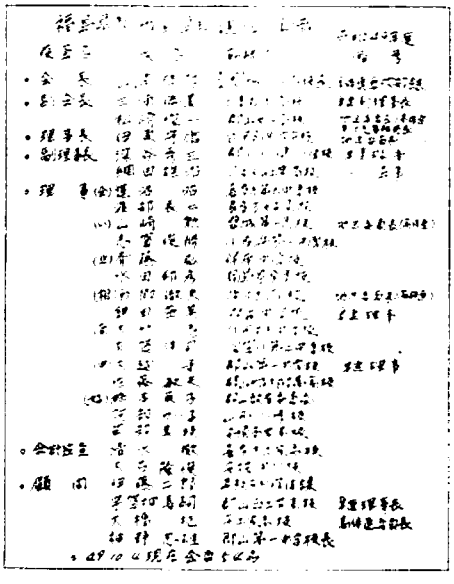
連盟の結成と同時に組織編成が行われた。初代会長には磐城第一高等学校長の山崎啓哲氏が副会長には三浦・松崎の両氏が選出され、また理事長には伊東守信氏が就き、現在の教職員卓球連盟の礎を築きあげた。



趣意書



この結成に尽力された主な方には、三浦勝美氏、松崎俊一氏、伊東守信氏、深谷秀三氏があげられ、校務多忙の中連絡をとりながら準備を進めていった。この組織編成で注目したいのは、各地区代表理事と女子理事の選出である。現在のように教員に採用される数も急激に減少し、しかも卓球を経験している先生を探すのにたいへん苦労していることから考えると羨ましい限りである。



連盟結成以前の活動は、宇賀神喜嗣氏、大橋征氏、丹藤祐輔氏、佐久間直氏、壁谷之夫氏、大越守氏の方々が活発に行っており、チームを組んで全国教職員卓球選手権大会にも参加をしていた。古くは、昭和32年山形県酒田市で開催された第2回大会をはじめ、昭和38年京都で開催された第8回大会では、すばらしい試合で善戦し、大変誉められたと宇賀神氏は話しておられる。結成10年以上も前から、有志により全国大会等に積極的に参加しておられたことは、驚きと同時にその熱意に感動させられる。

参考までに昭和37年に宇賀神氏が出された連絡並依頼事項という興味深い資料を掲載したい。

また、結成前年の昭和48年神奈川県藤沢市で開催された全国大会には、関氏、渡部氏、深谷氏を中心とした若いメンバーで参加している。教職員卓球連盟の

足跡を大きく三つに分けるとすれば、結成以前と結成時が第一期と言えるであろう。

昭和49年に正式に連盟が発足してからは、理事長の伊東守信氏をはじめ、故蓮沼昭氏、渡部長二氏、深谷秀三氏が中心となって活動した。この時期には、外山義彦氏、菅野博輝氏、佐藤敏夫氏、塙仁一氏、斎藤隆弘氏、荒木久勝氏、西畑薫氏などの新しい先生も多く入会した。年1回の総会と県大会は、日ごろの卓球指導談議や親睦を深めることを目的に、各地区の理事が開催責任者となり会場持ち回りで実施した。現在のように県大会レベルの大会が少なかった時期でもあり、貴重な情報交換の場として、とても重要であったことは確かである。全国大会にも積極的に参加し、卓球をとおして夏休みを有意義に過ごしていたようである。また、初代の理事長であった伊東守信氏が県卓球協会の事務局長になられたので、後任に蓮沼昭氏が就くことになった。

全国大会に出場したときの逸話はたくさんあるが、いくつか聞いて知っている範囲で紹介してみたい。

【昭和49年佐賀大会】

この時は確か塙仁一氏が会計、佐藤敏夫氏が庶務を担当した。九州旅行にもかかわらず予定は4万円程度の格安料金であったという。しかしいざ九州に到着してみると、毎晩毎晩1万円ずつの臨時徴収があったそうである。旅費4万円とは名ばかりで、列車の運賃と旅館の予約料だけだったようだ。旅行が終了するまで、財布の中身を見てヒヤヒヤものだったことだろう。

また、帰りの夜行列車でのこと。列車乗り継ぎのために大阪駅に降り立った。乗り継ぎ列車のホームに行くと、何とその列車は10分前に発車してしまっていたのである。福島に無事帰って来たのが不思議なくらいだったそうだ。

〈昭和54年 奈良大会にて〉

【昭和50年名古屋大会】

名古屋といえば荒木先生。なぜなら中京大学出身の荒木先生は、学生時代の4年間を過ごした街だからである。そこで練習会場などいろいろと下調べをしていった。到着してすぐに「行くぞ」と言われたので練習会場に案内しようとしたところ、行き先は雀荘だったそうだ。前もっていろいろと調べ手配したのは何だったのかと嘆いていた。

【昭和52年宮崎大会】

昼間に鹿児島県と対戦、結果は惜敗だった。夜宿泊先に鹿児島県がいっしょであることがわかり、昼の借りを返すべくマージャンを申し込んだ。結果は圧勝。福島県と鹿児島県の戦いは、明治維新から続いているのだろうか。大会終了後に、野生の馬が見られる都井岬に立ち寄った。宿に着くなりマージャンが始まり、徹夜になってしまった。帰る間際になって旅館のおかみさんに「いったい何しに来たの」と叱られようやく馬を見に行ったとか。ほんとうに見たかどうかは定かでない。

【昭和56年浜松大会】

この年は、パチンコのフィーバーがとてもはやっていた。郡山駅集合にもかかわらず、出発時間ぎりぎりになっても郡山在住の荒木先生の姿が見えなかった。痺れを切らし諦め乗車しようとしたとき、両脇にパチンコの景品を抱えて走ってくる荒木先生がいた。集合時間よりずいぶん前に到着したのでひやかし半分でパチンコを始めた。どうせ時間がないので、一獲千金を夢見てフィーバーをやったそうだ。時間も少なくなり止めようとしたそのとき、何と777がそろってしまった。出発に遅れるという焦りが募る中、ぎりぎりまで出して隣に譲ってきたそうだ。そのため、換金もできず景品のまま大会に出かけたのである。

また、大会開催地浜松の高級なホテルで食事をとった時のこと。短パン姿だった荒木先生が入場を拒否され、最後まで抵抗したが結局OKが出なかったという落ちまでついているのである。

【昭和57年沖縄大会】

全国大会が始まって以来、初めての沖縄開催である。故蓮沼先生を団長に、大会割引航空運賃もあってか家族で出かける方も多かった。沢宏一氏、佐藤敏行氏、上石健一氏、遊佐ひろみ氏、寺西（佐久間）礼子氏、須藤（宍戸）泰子氏などの若い先生も加わり、たいへんにぎやかな大会になったようだ。卓球もさる事ながら観光も思う存分に楽しんだ。ただ心残りは、沖縄にはマージャンの貸し出しがなかったことである。

＜昭和57年 沖縄大会にて＞

ここまでエピソードをまじえながら活動の足跡を記したが、卓球の試合結果も蓮沼氏のランク入り2回をはじめ荒木氏のベスト8等たいへん優秀であった。このあたりまでが第二期であろう。

残念なことは、ここまで教職員卓球連盟をリードし盛りたててきた蓮沼昭理事長が、昭和59年2月に42歳の若さでお亡くなりになったことである。ここに心よりご冥福をお祈り申し上げたい。

その後理事長を引き継いだのは渡部長二氏である。高体連卓球部専門委員長も兼任され、多忙極まりない中、若手の先生を率いて全国大会に出場した。中でも女子の監督で名采配ぶりを発揮した。寺西（佐久間）・須藤（武藤）志津組の2年連続第2位をはじめ、寺西氏のランク5入りはりっぱである。また、開催地の各所巡りにも気を配っていただき、昭和62年の函館開催のおりは、北海道をオートキャンプしながら観光できたことは、とてもよい思い出である。この時から須藤正徳氏や生井一弥氏、女子では安藤（小倉）英子氏、遠藤まさ子氏がいっしょに参加するようになった。私も渡部理事長と何回かいっしょに参加しダブルスも組ませていただいたが、試合毎にラケットと戦型が違うのには驚いた。きっと対戦相手はもっと面を食らったことだろう。でも、相手がやりずらいのか3・4回戦までいつも勝ち進んだのは不思議である。

昭和59年の古川大会の折りに、平成2年の大会を東北の交通が便利のよい地で開催してほしいという要請が正式にあった。宮城、岩手はもう開催しているため福島のどこかでということになった。その後いろいろと検討した結果、新幹線が通り、全国大会の運営経験がある郡山市での開催が決定した。全国大会開催にあたり組織も再編成され、会長に初代理事長の伊東守信氏、副会長に深谷秀三氏、理事長に菊地敏美が就くことになった。

第35回全国教職員卓球選手権大会（郡山大会）の準備は、地元の郡山市卓球協会はじめ福島県卓球協会の全面的な支援をいただいた。特に郡山市卓球協会の荒井理事長には、旅館組合との交渉・手配にいたるまで細部にわたり尽力いただき、改めて感謝申し上げたい。また、校務多忙にもかかわらず、伊東会長・深谷副会長には関係機関との連携のため奔走され、大会運営全体を通して適切な助言と指導をしていただいた。

前後になってしまったが、平成元年度の沖縄大会に開催準備のため伊東会長、深谷副会長そして郡山市卓球協会の荒井理事長はじめ、それぞれの家族といっしょに総勢15・6名で出かけた。

前回の沖縄大会の反省を生かし、手作りの持ち運び式のマージャン卓まで持参した。これが、かなりの重さになり、一番がっちりしている荒井理事長に持っていただいた。沖縄から石垣島までマージャンを持ち運び、民宿でもマージャンを始め、あげくのはてに一番負けたのが荒井理事長であった。

郡山大会は、福島県・郡山市卓球協会、100名を超す県内の卓球関係教職員協力のもと、盛大に開催することができた。また、ふくしま国体の強化もはじまり、成

＜平成10年度香川大会にて＞

績もすばらしい結果を残すことができた。男子団体第3位、佐藤敏行・落合茂幸組、寺西・須藤組ともにベスト5、そして学生チャンピオンだった横山選手（近畿大学）を破っての岩本繭郎氏の第2位は、会場を大いに沸かしてくれた。落合氏、佐藤氏のランク入りと遊佐ひろみ氏のシニア第3位も立派である。

郡山大会後は、国体の準備で忙しい中、深谷副会長、岩本繭郎氏、小田切敬氏が中心に参加した。この間、岩本氏の第2位・第3位というすばらしい成績を上げ、平成10年は深谷純子氏が女子で第3位に入賞した。ますますの発展を望みたい。

第4節　福島県実業団卓球連盟

事業団は職場対抗卓球大会として行われていたが、昭和25年より実業団と改称される。
昭和20年代後半からの参加チームを列記する。

（県　北）　福島製作所　福島製鋼　北芝電機　福島市役所　東亜栄養化学工業　東北電力福島
（県　中）　東北電力郡山　保土ケ谷化学工業　郡山市役所　日本専売公社郡山　郡山貯金局
国鉄郡山工機部　大東相互銀行
（会　津）　国鉄会津若松
（いわき）　常磐炭坑　呉羽化学工業　常磐交通　日本水素工業　四倉セメント　東北電力平
国鉄平　平郵便局　品川白煉瓦湯本

昭和41年11月のチーム数は、16（前年度　男9、女5、シングルス　男17、女5）が、実業団の県大会（全日本選手権大会の県予選を兼ねる）の参加数であるが、チームの力はバラバラなので、男子チーム戦は一部、二部制とし、一部は常磐交通、保土ケ谷化学、日本水素、林精器とし、一部はリーグ戦、二部はトーナメントの方法が考えられ、県代表は一部の一位と二部の二位、一部の二位と二部の一位の対戦で決める。このような事も話し合われた。また、地区を県北、いわき、県中（南）に分けて各地区より一名、実業団卓球連盟結成の世話人会を選出する。相双、会津地区は暫定的に卓球支部責任者に世話人になって貰う。これは理事会にも計る、という記事も見える。

昭和40年代で備忘録に登録されたチームを列記する、（既に記載されたチームは省略）

（県　北）　（株）中合　日東紡績（株）福島工場　日本ユニパック（株）　佐藤忠（株）
東北沖電気（株）、松下電器産業（株）
（県　中）　仙台コカコーラボトリング（株）　三菱電機郡山製作所　（株）金門製作所
山水電気（株）福島事業所郡山工場　日本化学三春工場　三春郵便局
（県　南）　林精器製造（株）　石川町役場　大同信号（株）浅川工場　サンスイトランス（株）
（会　津）　オール国鉄福島（会津）　富士通（株）会津工場
（いわき）　（株）常磐製作所　常磐共同火力（株）勿来発電所　モトローラ（株）いわき工場
いわき市役所　いわき通運（株）アルプス電気

昭和40年から実業団チームのレベルアップと交流の為に、福島県実業団スポーツ大会という名称で1部～3部に分けて予選リーグを行い入れ替え戦を行う形式で行われた。

第5回大会の（昭和44年11月30日：日和田文化体育館）参加チームは1部4チーム、2部4チーム、3部6チーム計14チームの参加で行われた。監督会議の内容に①女子チームの参加が多くなるまで、女子チームの男子チーム戦への参加を認める。②男・女の混成チームの男子チーム戦への参加を認める。と言う記事が見られる。

昭和50年代で登録されたチームを列記する。（既に記載されたチームは省略）

（県　北）　福島トヨペット　日東電工　東開工業　新幹線福島　ＮＥＣ福島
（県　中）　日本生命郡山　ナススポーツ　　（県　南）　郡山信用金庫
（会　津）　会津職業訓練校
平成に入るとバブル崩壊による企業経営の悪化に伴い、毎年チーム数が減少し平成１０年度は、計６チームの参加で行われ、平成１１年度は、計５チームの参加で行われた。ますます実業団の存在価値がなくなり、存続そのものが、危ぶまれているのが現状である。

＜全国大会＞　実業団の成績

トーアエイヨー㈱

昭和49年　全日本実業団卓球選手権大会　軟式女子の部　準優勝（東京都）
昭和58年　〃　〃　〃　（草津市）
昭和62年　〃　〃　〃　（上尾市）

日東紡績㈱福島工場

昭和46年　全日本実業団卓球選手権大会　大阪市　硬式女子　第８位
平成７年　全日本実業団卓球選手権大会　松山市　１部トーナメント硬式男子　第３位

須賀川信用金庫

平成５年　全日本実業団卓球選手権大会　福井市　軟式男子　第６位

第５節　福島県家庭婦人卓球連盟

理事長　影　山　　澄

昭和53年、福島市の母袋笙子（当時30歳）は、「卓球レポート」により東京において第１回家庭婦人卓球大会が開かれるのを知る。

常々、30を過ぎ、子育てが一段落したら、また卓球をやりたいと思っていたと言う彼女は、義姉、小関光子と相談、早速それに参加できる手段を探り始める。県卓協との連絡、選手探し等に走りまわり、福女OGを中心に有志が集まる。

小関、母袋、門田、上野、大貫、影山の６名。当時はダブルスの他、30代２名、40代２名の計６名の編成だったと記憶している。（その後50代が加えられ、本年からは60代も加えられる）

なにしろ皆、10年～20年のブランクの果てのにわか練習だから、仲々思うようにはいかなかったが、とにかく出来る限りの練習をしようと意気だけは盛んであった。参加出来なかった仲間達や家族の協力も大きく、カンパによりユニフォームまで揃えてもらう。音頭をとって下さった遠藤節子氏を始め、善意の方たちの協力には心から感謝申し上げたい。

いよいよ上京、松江、横須賀と対戦するも善戦及ばず敗れる。結果はともあれ大会の主旨、全国のレベルをその目で見て福島に帰った母袋は、この活動を継続させるには母体となる組織作りが必要と痛感、まず、地元福島市の組織作りに取組む。

当時、福島ではすでに家庭婦人を対象にした卓球教室（渡辺（旧姓後藤）昭子講師により）が、開かれていたのも幸いした。あっちの公民館、こっちの集会所、学校など卓球をしているらしいと噂を聞くとどこへでも、とにかく小まめに歩いた。

乳飲み子を背負い、さらに自転車の前後にも子供を乗せての活動だったので、容易ではなかったと思う。福島県家庭婦人卓球連盟の今日があるも、基となった福島市連の発足に際して、こういう人達の熱い熱い地道な努力があった事を忘れてはならない。もちろん、各支部においてもスタート時には、それぞれのいきさつやドラマがあったかも知れないが、おゝむね協会主導の元での発足であったと推測している。

昭和54年に福島市、56年会津若松市、57年いわき市と次々に発足、県連発足の気運が徐々に高まった。その間にも福島市で福島市連岸ひろみ理事長の呼びかけによる東北大会、郡山市で当時の県中那須喜明理事長の基で、今のレディース大会のはしりと言える大会が数回開かれ、後の須賀川市での協会主催の大会の基となった。

そして昭和58年ついに福島県家庭婦人卓球連盟の誕生となる。同年4月、福島市割烹「花月」において盛大に発会式を行う。郡山市、白河市はそれを機会に発足したと思う。支部は市町村、郡を単位とし、その後須賀川市、原町市、二本松市、相馬市、双葉郡が加盟。会津若松市は翌年会津一帯を合併、全会津として加盟今日に至っている。

会長にはすでに福島市連の会長職にあって、全国的に知名度の高い後藤英子に依頼、理事長に、岸ひろみ（福島）を選出、副理事長斎藤恵美子（いわき）書記小関光子（福島）会計影山澄（郡山）監査滝口静枝（会津）入谷みちこ（白河）理事若干名のスタートであった。

同年10月には会津若松市で、第1回福島県家庭婦人卓球大会を開催。各地持ち回りの大会も、17回目を迎えた。

平成10年改選役員名簿

顧　問	後藤英子（福島）
会　長	岸ひろみ（福島）
理事長	影山　澄（郡山）……事務局
副理事長	斎藤恵美子（いわき）
会　計	玉木志代子（郡山）
監　査	滝口静枝（会津）入谷みちこ（白河）
理　事	三菅敏江（二本松）佐藤栄子（原町） 小林朋子（会津）佐藤トミ子（いわき） 櫛田利子（いわき）菊地千恵子（福島） 熊川セツ子（福島）横山正子（須賀川） 西片美代子（須賀川）

県大会開催地

1（58）会津若松市	2（59）白河市
3（60）いわき市	4（61）福島市
5（62）郡山市	6（63）原町市
7（元）会津若松市	8（2）白河市
9（3）いわき市	10（4）福島市
11（5）郡山市	12（6）会津若松市
13（7）河東町	14（8）白河市
15（9）二本松市	16（10）原町市
17（11）須賀川市	

第6節　福島県卓球ベテラン会

前事務局長　大　橋　　征

設　立

卓球ベテラン会は、昭和62年に古山栄助（福島）佐藤昭典（いわき）土屋弘（会津）山田英男（郡山）が中心となって県内に居住する女子40才、男子50才以上の卓球愛好者に呼び掛け、会員相互の親睦と卓球技術の向上並びに健康と体力作りを目的として設立された。

大会開催

記念すべき第1回大会は、昭和62年10月25日（日）福島市体育館に男女あわせて32名が参加して行われた。種目はフィフティの部、シックスティの部で男女混合のシングルスで行われた。

①フィフティの部

1位大島実（福島）2位古山栄助（福島）

②シックスティの部

1位岸ひろみ（福島）2位土屋弘（会津）

※第2回大会から男女別の種目で実施する。

発足当時の役員

会　長　信沢　要（いわき）
副会長　土屋　弘（会　津）　佐藤昭典（いわき）
支部長　古山栄助（県　北）　山田英男（郡山　）
　　荒明健二（県　南）　土屋　弘（会津兼）
　　新妻正文（いわき）　浜名秀雄（相　双）

事務局　古山栄助・森合　勲・安東美知子・
　　佐藤愛子（福島）
会　計　松本信子（福島）
監　査　加藤昭治（会津）

新卓球ルール（ラージボール卓球）

日本卓球協会が幅広く卓球の普及を計ると共にレクリェーションとして卓球を楽しむことを目的として昭和63年4月1日新卓球ルールが制定される。

全国健康福祉祭（ねんりんピック）

長寿社会を迎え、高齢者を中心とする国民の健康の保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力のある長寿社会づくりにむけて気運を醸成しようとする目的で開催される。

厚生省の主催でねんりんピックへの参加は県長寿社会推進機構が窓口で参加が60才以上の高齢者のため、ラージボール卓球の選手選考について卓球ベテラン会事務局に依頼があった。

第1回全国健康福祉祭（ねんりんピック）

昭和63年当時ラージボール卓球は県内では未普及で依頼を受けた古山事務局長は役員会に図り、県内から選手を選抜して練習をつんで参加した。

監督　信沢要
選手　古山栄助（福　島）　佐藤昭典（いわき）
　　山田英男（郡　山）　大槻修二（福　島）
　　吉田栄子（いわき）　越智安子（いわき）
　　中村福子（会　津）　笠原よし子（会津）
　　伊関幸子（福島）

予選リーグ　三重県・川崎市・徳島県　3勝一位
決勝トーナメント　1回戦　福島4－2東京都
　　2回戦　福島2－4愛知県

※初出場でベスト8は立派な成績であった。

全国スポーツ・レクリェーション祭

昭和63年文部省主催で行う全国スポーツレクリェーション祭が開催された。

ラージボール卓球の部には県卓球協会で定めたローティションによって参加していた。

第1回大会には相双地区が参加する。

監督　浜名秀雄
選手　40代　男子　星　孝三
　　女子　佐藤　栄子
　　50代　男子　堀川　清光
　　女子　朝倉美智子
　　60代　男子　浜名　秀雄

ラージボール卓球の経験のないままの大会参加であった為1勝もできなかった。

組織の充実

平成2年事務局を大橋柾（いわき）が担当することになる。

各支部に女性理事の枠を設け、さらに会長指名若干名を加え、定例理事会を開催することによって組織と会運営の充実を図る。

平成3年度から登録制度を導入する。

登録金1,000円登録者名簿を作成する。

ラージボール種目の普及

全国健康福祉祭・全国区スポーツレクリェーション祭にラージボールが卓球が高齢者・初心者にも歓迎され、また、大会がベテラン会をはじめ各地区でも開催されるようになって普及が加速された。本会は平成３年の大会からラージボール種目を設けた。

第１回福島県ラージボール選手権大会

期日　平成４年５月３１日（日）
会場　郡山市　富久山公民館
主催　福島県卓球協会
主管　福島県卓球ベテラン会
　　男子18名　女子３２名参加
　　男子優勝　大島　実（福島）
　　女子優勝　太田睦子（福島）
　ねんりんピック出場（予選会を兼ねて行なう）
　　監督　大橋　柾
　　選手　松崎俊一・大槻修二・笠原よし子
　　伊関幸子・木田澄子・山崎千枝子

県民スポーツレクリェーション祭

県民のスポーツ・レクリェーション活動を一層促進し、健康で明るく潤いのある県民生活の実現に資する目的とする。

第１回大会（男子23名　女子21名参加）

期日　平成４年10月９日～10日　９日（土）前夜祭
会場　福島市　鎌田小学校体育館
種目　地区対抗団体戦（男子４名，女子４名）
　　男子・女子シングルス
　　団体戦①女子シングルス②男子ダブルス③混合ダブルス
　　④女子ダブルス⑤男子シングルス
　団体戦では県北チームが初優勝を飾る。
　個人戦　愛沢政司（相）菅野日出子（北）が優勝。

すこやか福島ねんりんピック

スポーツ・レクリェーション活動を通して、高齢者の健康の保持・増進、生きがいの高揚、さらには交流機会の確保を図ることにより、明るく活力ある長寿社会つくりを推進することを目的として実施する。

（成績は全国健康福祉祭参加選手の選考の資料とする）

第１回大会（男子21名女子46名参加）

期日　平成５年６月３日（木）
会場　福島市　あづま総合運動公園体育館
男子　①古山　栄助（福　島）　②佐藤　昭典（いわき）
　　③山田　英男（郡　山）　④橋本　正美（郡　山）
女子　①鈴木ハツ子（福　島）　②越智　安子（いわき）
　　③黒井　良子（会　津）　④天野ミツ子（会　津）

全国スポーツ・レクリェーション祭予選

平成５年度まで地区ローテイションにより参加していたが一巡したところでラージボールの普及も

あり、平成6年度から県卓球協会主催のラージボール選手権大会兼予選会として行なうことになった。

第3回県ラージボール選手権大会兼全国スポレク祭予選

期　日　平成6年6月26日（日）
会　場　郡山ふるさとの森体育館
監　督　松崎　俊一（中）

選　手　吉沢　昭夫（い）橋本　邦俊（中）
佐藤　富弘（い）菊地　淑子（中）
遠藤せい子（い）高橋　孝子（中）
三瓶千鶴子（中）
※県予選を経た初めてのチーム

ねんりんピック・スポレク

ラージボール卓球の普及は目覚ましいものがあり、年々参加者も多くなり、全国大会への参加希望者も多くなってきた。全国大会に参加する各県の状況などを考慮し平成１０年度から上記大会には地区回りでチームを編成して参加することになった。

	平成10年	11年	12年	平成13年	14年	15年
ねんりん	（い）	→（相）	→（北）	（中）	→（南）	→（会）
スポレク	（中）	→（南）	→（会）	（い）	→（相）	→（北）

会長人事と事務局の移動

平成8年4月から土屋弘が会長職に付く、ベテラン会の設立から会長を勤めていた信沢要は名誉会長となる。また、平成10年4月から事務局長が大橋柾から桑原高志にバトンタッチされる。
ベテラン会に慶弔規定ができる。
大会参加者の数がラージボールの部で硬球の部を大きく上回るようになる。

福島県卓球ベテラン会役員

平成11年度

会　　長　土屋　弘（会　津）
副 会 長　古山栄助（県　北）　佐藤昭典（いわき）　浜名秀雄（相　双）　大橋　柾（いわき）
支 部 長　白井信雄（県　北）　山田英男（県　中）　鈴木規之（県　南）　加藤昭治（会　津）
　　酒井忠久（いわき）　相沢辰男（相　双）
理　　事　荒　恭子（県　北）　斉田伸子（県　中）　鈴木克子（県　南）　滝口静枝（会　津）
　　秋山済子（いわき）　佐藤栄子（相　双）
指名理事　服部保治（二本松）　岸ひろみ（福島）　高田正光（白河）　影山澄（郡山）
監　　査　上野　勲（郡　山）　丹野志奈子（いわき）
事務局長　桑原高志（いわき）
名誉会長　信沢　要（いわき）
顧　　問　三浦勝美（前卓球協会長）　西郷徹夫（卓球協会長）
参　　与　宇賀神喜嗣（郡山）　松崎俊一（郡山）　大波一明（二本松）

ベテラン会関係事業

主催
①ベテラン会春季卓球大会（硬球・ラージ）
②ベテラン会秋季卓球大会（硬球・ラージ）

主管・協力
①県ラージボール選手権大会
②すこやか福島ねんりんピック
③ふくしまスポーツフェスタ
（県民スポーツ・レクリェーション大会を改称）